

3月・4月の管理ポイント

平成28年3月5日



株式会社 トモグリーンケミカル

ホームページアドレス
<http://www.tomo-green.com/>

第140号

3月に入り、いよいよ今年も芝生が動き始めます。3月・4月はまだまだ温度の高低差があり油断できないシーズンです。特にグリーンの更新作業後は浸透剤を使用し、処理層を作っておくことがドライスポット対策の上でも重要です。



レボ (REVO)

春先の灌漑管理が重要です...

春の水管理が芝生の根をしっかりと伸ばすポイントです!!

レボは土壌粒子の表面を薄い膜で覆いますので、土壌中の気相がアップし、尚且つ、表層の過湿を防ぎます。グリーンの表層を少し乾燥気味にして、根に軽いストレスを与え、下層に伸ばすためにも、この時期からの定期散布が重要となってきます。常に根が下に伸びやすい環境を整えて、夏が来るまでにしっかりと準備しておきましょう。

使用量：2ml/m² 散布水量：200ml~1L/m² 散布回数：1ヶ月に1回



サッチ・マネージャー

サッチ層の除去には...

本剤は、自然界に存在する微生物の中からサッチ成分に対して優れた分解能力のある有用菌(野生株)を選抜した微生物資材です。16種類の有用菌(乳酸菌11種、枯草菌3種、酵母菌2種)で構成されており、様々な土壌環境にも適用できるように配合されています。製剤1g当たり約400億個の菌が配合されておりますので、安定した効果が期待できます。

ラフ、FWなどの大面積散布にも経済的に使用できます。

使用量：ラフ・FW 0.1~0.2g/m² グリーン 0.5g/m² 散布水量0.2~0.5ℓ/m²



グリーンメカ

芝生の貯蔵養分を補うために...

3月、4月は、休眠明けの植物が生長する時期です。

特に3月上旬の萌芽期は、一斉に芽出させ(生育のバラツキをなくす)ことが重要です。

休眠前に貯蔵しただけでは不足しがちな糖類・アミノ酸・ミネラルをグリーンメカを処理することによって、補っていきましょう。

使用量：5~10ml/m² 散布水量1L/m²以上



カラーマーカー・L

除草剤散布のマーキングには...

春の除草剤散布の際、散布済区のマーキングに《カラーマーカー・L》をご利用下さい。

食用色素を主成分とした、環境にも配慮された商品ですので、安心してご使用いただけます。

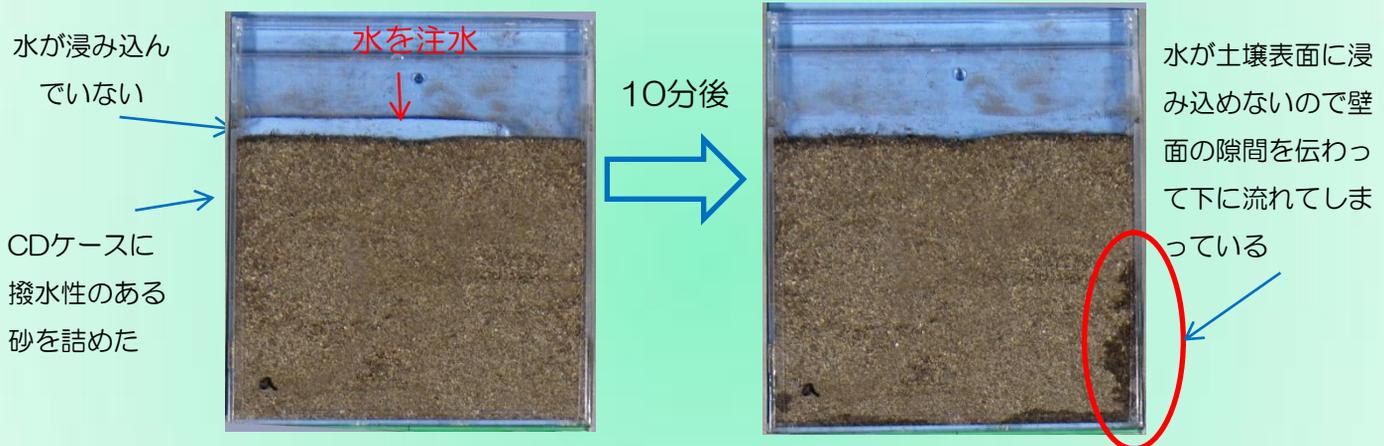
リキッドタイプのため濃淡(倍率)調整が容易になり、価格も経済的です。

使用量：3000~5000倍(倍率は芝生や主剤の色あいにより自由に調節してください)

界面活性剤の撥水性土壌への浸透効果について

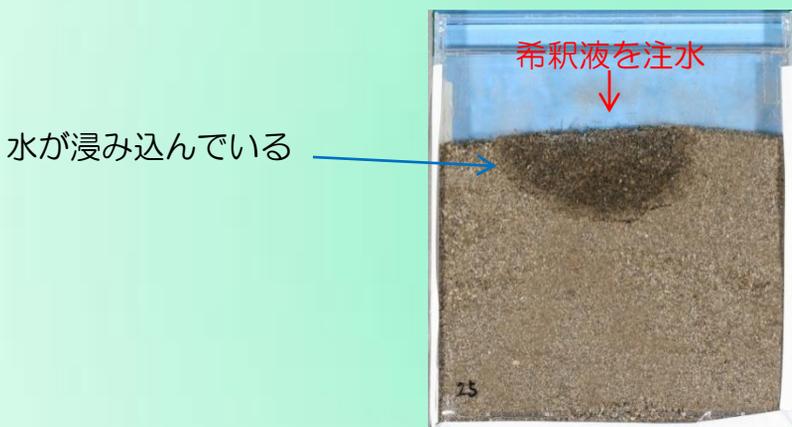
土壌界面活性剤の大きな効果の一つとして、ドライスポットの原因である撥水性土壌への浸透が挙げられます。しかし、普段のゴルフ場の現場では土壌中で水がどのように浸透していくかを確認するのは難しいと思います。そこで今回のマメ知識では、CDケースを用いて土壌界面活性剤によって土壌中に水がどのように浸透していくかを説明します。

撥水性の砂に水のみを注水した場合



このように水だけで散水しても撥水性を持ってしまった土壌には浸み込みません。また実際のグリーンではCDケースの壁のような隙間はないので、下にも浸み込むことなく表面を流れていってしまいます。そのため、撥水した土壌に浸透させることは難しいと思われます。

界面活性剤の希釈液を注水した場合



界面活性剤を添加することにより水の浸透力が高まり、撥水性の土壌に対しても水が浸透していきます。

今回は撥水した土壌に水のみと界面活性剤の希釈液を注水したときの水の浸み込み方の差について説明しましたが、次回はあらかじめ土壌に界面活性剤を処理した場合の水の浸み込み方について説明します。